



朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。これからの季節は、風邪やインフルエンザ、胃腸炎などの病気が心配されます。下記の点にご留意くださるようお願いいたします。また、体調が悪い日は、無理をせず、早めの休養や受診をしましょう。

インフルエンザの予防について

今年もインフルエンザと他の感染症が同時に流行する可能性があります。

《感染経路》

- 患者の咳やくしゃみに含まれるウィルスを吸い込むことによる「飛沫感染」
- ウィルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」



《予防対策》

- インフルエンザの予防接種が有効です。(保健所より接種勧奨をされています。)
- 子どもの場合、2回接種が標準です。*予防接種を受けた方は、受けた日にちを連絡ノートでお知らせください。
- 室内の換気と加湿 (概ね、湿度50~60%)
- こまめな手洗い (流水と石鹸)
- 手指のアルコール消毒
- 咳エチケット
- マスク (咳が出ている日は着用して登園してください。予備マスクを通園リュックに常時入れておいてください。)

《インフルエンザ発症後の登園のめやす》(保育所における感染症対策ガイドラインより)

- 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで、園はお休みしてください。
- 治癒後、登園する際には、「登園届」の提出をお願いします。



感染症胃腸炎の予防について

毎年、秋から冬に流行する病気で、とても感染力が強いため注意が必要です。

冬は、ノロウイルス・ロタウイルスが代表的です。

《感染経路》

- 病原体が付着した手で口に触れる接触感染、汚染された食品を食べることによる経口感染があります。

《症状》

- 下痢・嘔吐・吐き気・発熱など。病原菌により異なります。ロタウイルスに感染の場合は、便が白っぽくなります。

《家庭での予防ポイント》(保育所における感染症対策ガイドラインより)

- 排便後や調理・食事の前に、石鹸と流水で手を洗いましょう。
- 二枚貝や鶏肉などを調理する時は、中まで十分に加熱してください。

《感染症胃腸炎発症後の登園のめやす》

- 下痢や嘔吐の症状が治まり普通の食事がとれるようになるまで、園はお休みしてください。
- 治癒後、登園する際には、「登園届」の提出をお願いします。



《園で下痢・嘔吐した場合の汚染された衣類の取扱いについて》

- 保健所の指導により、便(下痢)や嘔吐物からウィルスが排出している可能性があるため、汚れた衣類等は園舎の外で保管し、洗わずにお返ししますので、ご了承ください。()
- 汚れた衣類等は、ご家庭で下記を参考にし、適切な処理を行ってください。(①~③の中から1つを選んで行ってください。)
- ①85℃以上のお湯に1分以上つける。
- ②0.1%の次亜塩素酸ナトリウムに10分以上つける。
- ③ゴミに出す。
- *マスク・使い捨て手袋・使い捨てエプロンを装着し、換気に気をつけながら処理してください。
- 血液で汚染した衣類も洗わずにお返しします。

冬のスキンケアについて

冬になると空気が乾燥してきます。子どもの肌も乾燥肌に傾き、トラブルをおこしやすくなります。

- ①毎日お風呂に入り、体を清潔に保ちましょう。
*ボディーソープは、刺激の弱いものを少量、よく泡立ててから使いましょう。
- ②肌のかさかさ強い時は保湿剤を使いましょう。
*入浴後、入浴で浸透した水分を封じ込めるためにも、早めに(5~10分以内)に保湿剤を塗りましょう。
*医師や薬剤師に相談し、お子さまの肌質や年齢に合った保湿剤を見つけておくのも良いです。
- ③肌を刺激する素材の肌着や洋服は避けましょう。
- ④部屋の空気が乾燥しすぎないように注意しましょう。
*加湿器の使用や洗濯物の部屋干しなどで室内の湿度調節をし、湿度を50~60%に保ちましょう。



発熱・体調不良時の登園について

以下の症状の方は、感染症防止のため、登園は控えて頂けるようお願いいたします。

- 24時間以内に38℃以上の熱が出た場合や解熱剤を使用している場合。
- 朝から37.5℃を超えた熱があることに加えて、元気がなく機嫌が悪い、食欲がなく朝食・水分が摂れていないなど全身状態が不良である場合。
- 幼稚園は集団生活の場です。流行が拡大しないよう、保護者の皆様のご配慮とご協力をお願いいたします。